


1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症や供給面での制約、原材料価格上昇の影響がみられるなか、一進一退の状況にある」










項目	前回（4年1月判断）	今回（4年4月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症や供給面での制約、原材料価格上昇の影響がみられるなか、一進一退の状況にある	

（注）4年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、感染症の影響が続くなか、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、感染症の影響が続くなか、持ち直しの兆しがみられる。観光は、感染症の影響により厳しい状況にあるなか、一進一退の状況にある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年1月判断）	今回（4年4月判断）	前回比較
個人消費	感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	感染症の影響が続くなか、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	感染症の影響がみられるなか、下げ止まっている	感染症の影響が続くなか、持ち直しの兆しがみられる	
設備投資	3年度は増加見込み	3年度は減少見込み	
観光	感染症の影響により厳しい状況にあるなか、一進一退の状況にある	感染症の影響により厳しい状況にあるなか、一進一退の状況にある	
企業収益	3年度は増益見込み	3年度は増益見込み	
企業の景況感	「上昇」超となっている	「下降」超となっている	
住宅建設	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	弱含んでいる	
公共事業	前年を下回る	前年を上回る	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「感染症の影響が続くなか、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる」

スーパー販売は、総菜が堅調に推移しており、緩やかに持ち直している。コンビニエンスストア販売は、感染症の影響がみられるものの、総菜や冷凍食品が堅調に推移しており、持ち直しつつある。乗用車販売は、供給面の制約により足踏みの状況にある。ドラッグストア販売は、食品などが堅調に推移しているものの、インバウンド消費剥落の長期化などにより、一進一退の状況にある。家電販売は、巣ごもり需要の一巡や一部商品の供給不足に伴う品薄もあり、持ち直しのテンポが緩やかになっている。百貨店販売は、感染症の影響から来店客数が減少しているほか、インバウンド消費剥落の長期化などにより、足踏みの状況にある。ホームセンター販売は、DIY用品にみられた巣ごもり需要が落ち着いていることから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

このように、個人消費は全体として、感染症の影響が続くなか、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。

(主なヒアリング結果)

- 感染症や大雪により買い物に行けなくなることを想定して、備蓄のために大容量の商品にも需要がある。(スーパー)
- 除雪に追われ、調理を簡単にしたいというニーズから、弁当や総菜、冷凍食品の売上が伸びた。(コンビニエンスストア)
- 4月上旬に予定していたイベントが、展示車を用意できないことから中止となった。(乗用車販売店)
- オミクロン株の拡大に伴いウイルス検査のニーズが高まり、抗原検査キットは、在庫がなくなるほど売れ行きが良かった。(ドラッグストア)
- 新生活需要から、テレビや冷蔵庫、洗濯機が売れているものの、単身者向けは低価格帯であることから、客単価は低下している。(家電量販店)
- バレンタインの催事期間は、感染の拡大期と重なり、来店客は目的の商品だけを購入する傾向がみられて、「ついで買い」が減少し例年よりも客単価が半減した。(百貨店)
- 時短営業中は厳しかったが、まん延防止等重点措置の解除以降、歓送迎会需要もあり、客足が戻り始めている。(不動産業)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

生産活動は、「食料品」や「輸送機械」などが増加しているものの、「鉄鋼業」などが減少しており、全体では足踏みの状況にある。

- 北海道では酪農家の規模拡大等に伴い乳量が増加傾向にあり、コロナ禍で製品需要が伸びていない中でも乳業メーカーでは受託乳量分を生産しなければならず、在庫の積み上がりが課題となっている。(食料品)
- 当期は挽回生産を行う計画であったが、半導体不足の影響が残るほか、3月は東北の地震による影響もあり、計画通りの生産とはなっていない。(輸送機械)
- 車両向けの需要が半導体不足等の影響から落ち着いているほか、原材料価格が高値で推移しているため、必要な分を生産することとし、在庫を積み増すような生産を行っていない。(鉄鋼業)

■ 雇用情勢 「感染症の影響が続くなか、持ち直しの兆しがみられる」

有効求人倍率は上昇しており、完全失業率は前年を下回るなど、雇用情勢は、感染症の影響が続くなか、持ち直しの兆しがみられる。

- 新規求人数は、観光や飲食、宿泊などのコロナ禍に大きな影響を受けた業種で増加しており、改善の兆しがみえてきている。(公的機関)
- 月間有効求職者数は、公的支援を受けた者による求職活動が長期化しており、コロナ禍前と比較すると高止まりしている。もっとも、感染症の拡大や大雪の影響により、求職活動を自粛する動きもみられる。(公的機関)
- 時短営業から通常営業に戻そうとしても、従業員数が不足している。飲食サービス業は、感染拡大時には自治体からの要請を受けて時短営業や休業するイメージが定着しているためか、求人を出しても応募が少ない。(飲食サービス業)

■ 設備投資 「3年度は減少見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年1-3月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが減少していることから、全体では減少見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」などが減少していることから、全体では減少見込みとなっている。

- 3年度は、前年度に実施した工場建設投資の反動で減少している。4年度計画は、工場の老朽化した機械設備の維持更新のほか、新製品の製造に向けて研究開発に力を入れる予定。(輸送用機械器具)
- 3年度は、例年並みの維持更新投資を行ったものの、前年度の大規模投資からの反動により減少した。(運輸業、郵便業)

■ 観光 「感染症の影響により厳しい状況にあるなか、一進一退の状況にある」

- 観光は、感染症の影響により厳しい状況にあるなか、来道客数は前年を上回っており、一進一退の状況にある。

- まん延防止等重点措置が解除され、4月の予約状況は手応えを感じている。今後の予約の伸びも期待されるため、4月は3月よりも旅客者数の増加が見込まれる。(運輸業)
- 自治体の観光支援策が再開されたものの、予約状況は芳しくない。旅行者のマインドがまだ上向いていないことから、観光支援策の再開があっても急激に旅行者が増加することはないと思われる。(宿泊業)
- 予約状況は2月を底にして徐々に観光客が戻ってきているものの、回復の勢いはまだ弱い印象である。全国規模の観光支援策の再開を待って、今は予約を控えているとみられる。(旅行業)

■ 企業収益 「3年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年1-3月期

- 製造業では、「窯業・土石製品」などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字縮小となっていることなどから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年1-3月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(4年1-3月期)でみると、企業の景況判断BSIは、全産業では「下降」超となっている。

なお、先行きは、4年4-6月期に「上昇」超へ転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱含んでいる」

- 住宅建設は、持家、貸家、分譲住宅いずれも前年を下回っており、弱含んでいる。

■ 公共事業 「前年を上回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額でみると、第4四半期は、国、独立行政法人等、北海道、市町村が前年を上回っており、全体では前年を上回っている。

■ 金融 「貸出金残高は前年を下回る」■ 企業倒産 「前年を上回る」■ 消費者物価 「前年を上回る」